

令和8年度第1回教育課程編成委員会 議事録

日 時：令和8年6月15日(月)11時00分～12時10分

場 所：多摩リハビリテーション学院専門学校 学院ホール 201 教室

教育課程編成委員：林義巳学院長、岩戸徹副学院長、(作業療法学科) 鎌田小百合学科長・中村晃一主任・横濱秀征主任、(理学療法学科) 佐藤譲司教務部長兼学科長・成塚修一主任・西井琢馬主任、(言語聴覚学科) 木村欣司副教務部長兼学科長・西片裕主任、(介護福祉学科) 鈴木健二郎学科長・竹内克主任、黒田英寿事務長(青梅商工会議所常議員)、景山雄介広報課長、師岡静枝情報システム課長、大堀隆二氏(社会福祉法人一石会統括施設長、青梅商工会議所常議員)、鈴木康雄氏(医療法人社団和風会リハビリテーション部長・PT)、人見太一氏(杏林大学)、池田健祐氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科技術士長・OT)、赤松栄晃氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科課長・ST)、浦島秀之氏(一般社団法人国際高齢者支援協会)、委員 21 名

記

1. 報告事項

(1) 各学科からの報告(各学科長)

- ①令和7年度国家試験合格率,退学率
- ②令和8年度新学期のクラス状況(在籍者数等)

2. 意見交換(外部委員からご意見・ご提案等)

- (1) 個別スペースの確保について(林学院長) 【別紙】
- (2) その他

1) アンケート調査結果の報告；理学療法学科学生の学習状況と臨床への意欲に関するアンケート、ならびに法人理学療法士における臨床推論および今後について(岩戸副学院長) 【別紙】

3. その他

以上

1. 報告事項

(1) 各学科からの報告(各学科長)

①令和7年度国家試験合格率,退学率

合格率…78.7%,108名中85名合格

退学率…5.2%(330名中17名)

②令和8年度新学期のクラス状況(在籍者数等)

【理学療法学科】

①令和7年度国家試験合格率,退学率

令和7年度(第61回)国家試験合格率…89.5%(全国89.7%),38名中34名合格.

退学率…0.8%(125名中1名:1年生0名,2年生1名,3年生0名).

②令和8年度新学期のクラス状況(在籍者数等)

1学年43名(留年者0名,休学者1名)

今年度は高卒からの現役以外の学生が3名(社会人経験2名、その他1名).昨年度に引き続きオリエンテーションを1週間行い,高等教育への円滑な接続を行った.在校生交流や今年度初の鈴木部長のキャリアパスについての講義を行った.引き続き,カリキュラム・ポリシーである「幅広い知識ならびにコミュニケーション技術を修得するために自発的な行動ができるよう育成する」ためにバックアップする.

2学年43名(留年者0名、休学者1名)

クラス内での人間関係問題があり,対応した.にぎやかなクラスであり,非常勤講師から学生の反応が良いと評価される反面,例年以上に知識の格差が大きい.カリキュラム・ポリシーである「これまでに修得した知識や社会性をもとに理学療法を実践できる力を育成する」ためにバックアップする.

3学年41名(留年者2名,休学者2名)

現在総合臨床実習I期中である.実習地変更1名含み,実習教育者との関係性構築不良の学生が2名いる.引き続き学生の安全・安心を支援する.カリキュラム・ポリシーである「対象者に寄り添い,問題解決に惜しみない力を発揮するための専門知識・社会性を育成する」ためにバックアップする.

【作業療法学科】

①令和7年度国家試験合格率,退学率

令和7年度(第61回)国家試験合格率…95.8%(全国91.2%),24名中23名合格.

退学率…11.4%(88名中10名:1年生7名,2年生1名,3年生2名)

②令和8年度新学期のクラス状況(在籍者数等) 計85名(1年生30名,2年生27名,3年生28名)

今年度から高校生活とのギャップによる疲弊を防ぎ,心理的安全性と学業継続への意欲を高めるため,週1回のオンライン授業を導入した.移動負担を減らし,リラックスした環境下でのグループワーク等を通じ,無理なく学校生活に馴染んでいく仕組み作りを実践している.

3年次の総合臨床実習においては,精神的不安から合理的配慮を行ってきた学生が,専門職としての実践の壁に直面する事例が生じている.学ぶ意欲はあっても,コミュニケーションや臨機応変な行動など,実践力の面で課題が顕著化している.ループリックを活用し客観性を担保した成績評価を実施する予定であるが,不合格となった際の本人や家族への心理的フォロー,その後の再教育体制等,慎重な対応を検討中である.

【言語聴覚学科】

①令和7年度国家試験合格率,退学率

令和7年度(第28回)国家試験合格率…58.3%(全国66.4%),24名中14名合格.

退学率…5.4%(56名中3名:1年生2名,2年生1名)

1年生:入学者31名 進級者29名 退学者2名 休学者0名

2年生:進級者25名 卒業生24名 退学者1名 休学者0名

全体:令和7年4月時 56名 令和8年3月時 53名 退学者3名 退学率5.4%

②令和8年度新学期のクラス状況(在籍者数等)

1学年:26名(内訳:専門実践教育訓練給付金9名,東京都委託訓練生14名,現役その他3名)

現在,学校生活にも慣れ始めている時期となり,個人の特性や傾向を把握するため,個別面談を実施している.前期では大きな問題に発展しないように,常に会話ができる関係性の構築と,科目学習の方法の確立を主軸として関わっている.現在,特性が強く偏っている学生によってクラス内に軋轢が生じており,本人を含めて個別に対応している.後期では,学習成績の差が目立つようになる.そこで,学習成績が2SD以上離れている学生には,個人の特性に合わせた教育的支援を行っていく予定である.

2学年:29名(内訳:専門実践教育訓練給付金12名,東京都委託訓練生9名,現役その他8名)

昨年度の国家試験合格率の低下を重く受け止め,今年度は国家試験対策を重点的に実施する.年度初めの模擬試験と再試験数から予測した本年度の合格予測は65%となった.昨年度の合格予測が64%で,実際の合格率が58%であったことを踏まえ,昨年度と同様の対応をしていたのでは同じ轍を踏むことになる.そこで,学生を学習習熟度別にふり分け「基礎形成段階:模擬試験100点未満(200満点)」「理解修正段階:模擬試験100~120点」「思考進化段階:模擬試験120点以上」,習熟度に合わせた個別指導を徹底して実施する.

【介護福祉学科】

①令和7年度国家試験合格率,退学率

令和7年度(第38回)国家試験合格率…63.6%(全国58.8%)22名中14名合格;日本人62.5%(全国91.1%)8名中5名合格,留学生64.3%(全国34.5%)14名中9名合格

退学率…4.9%(61名中3名:1年生1名,2年生2名)

②令和8年度新学期のクラス状況(在籍者数等)

全体 66名,1年生 31名,2年生 35名(1名休学)

1年生31名中25名が留学生となっており日本人学生が減っているのが顕著となっている.ミャンマー(13名),ネパール(4名)が増えている.2年生35名は1名休学をしている状況であるがそれ以外の学生は国家試験を目指して問題なく通学が出来ている.5月に模擬試験を実施し苦手科目の把握などを行っている.

2. 意見交換(外部委員からご意見・ご提案等)

【人見外部委員】

これら職種に共通する就職後の課題として、専門職としての役割理解と多職種連携の中での主体性の発揮が挙げられると考えます。特に近年においては、若手専門職にとって、指示を待つ姿勢から脱し、自ら考え発信すること自体が難しい課題となっているように感じます。

そのため貴校においては、アクティブラーニングを一層強化し、国家資格取得を目的とした知識等に加え、自身の専門性に自覚を持ち、臨床現場においてリーダーシップや調整力を発揮できる人材の育成を期待しています。

また、合理的配慮の学生の実習先での対応はどうか。

←各学科より状況を説明。各々個別で対応を工夫している。

【鈴木委員】

キャリアデザインについて

←PT では本外部委員に講義をしてもらったり、OT では協会学会へ出席したりなど各学科工夫を凝らして対応している。

←どういうセラピストになりたいかを組み込んでほしい。法人としてはインセンティブを組み込めるよう検討中である。

【池田外部委員】

就職後の課題として個別性を重視する中で現在、職場では配慮しすぎて本人の成長機会が減る、逆に配慮不足でストレス、離職リスクが上がるなど過剰配慮と支援不足の二極化を対策中。

実習での指導者の問題(負担)について

←評価基準を確認することやこまめなやり取りを行っている。

【赤松外部委員】

国家試験不合格者に対しどのような支援を行っているのか教えていただきたい。また、その支援内容を入学前の学生に提示しているか確認させていただきたい。

←卒業後も可能な範囲で対応している。自己学習スペースの確保、模擬試験の対応、個別学習の対応など行っている。

【大堀委員】

なぜ ST の合格率は悪かったか。CW は留学生が多いようだが。

←不合格者の半数は生活との両立が難しかった。また、学習難の学生も見受けられた。今年度は学習をできる環境を取り組んでいる。

←国家試験の合格は、留学生は全国平均以上である。むしろ日本人の結果がよくなかった。今年度は最終学年も日本人、留学生とも読解の講義を組んで対応をしている。

【浦島委員】

社会情勢も変化しているから、魅力も変化してきている。日本人をどうやって合格させるかが大切である。

【黒田委員】

本委員会は外部の委員の方々から意見をいただき、教育課程の内容に活かしていくことである。引き続きよろしくお願ひしたい。

【理学療法学科】

GIGA スクール構想を含む初等・中等教育における格差が大きい。また、コミュニケーションが取れないもしくは取りにくい学生、自己主張のみで目上の話を聞かないなど、家庭教育が崩壊していたと思わせる学生も多い。ALを行うための基礎学力の確認や理解力を育み、学院生活を第一優先するよう支援している。その一環で鈴木部長の講話を通し、学生から「理学療法士になるという目的から、どのような理学療法士になりたいかという目標設定の重要性を知った」との意見があった。臨床現場も同様に、この職場で何がしたいのか？ どうなりたいの？ 夢は？ など確認してはどうか。国家試験不合格者への対応として、先ず4月に面談し方向性の確認をする。個別指導と教室開放、過去の模擬試験実施など対応している。昨年度は10回目で合格した卒業生もいた。入学前の受験者には、学院説明や個別相談にて同様に説明を行っている。

【作業療法学科】

本学科では1年次から作業療法概論や医療倫理学の授業において、事例検討などのグループワークを取り入れたアクティブラーニングを実践している。今後も単なる知識の暗記にとどまらず、臨床で求められる多角的な思考力や専門性を強化する能動的な授業展開を推進したい。

教育上の配慮は個別性が高く、内容の統一化が難しい。本人も周囲も納得した実施にするためには綿密な状況確認やコミュニケーションが必要であり、人的負担も時間も要するため学科内でも懸案事項の一つである。

国家試験不合格者は、フリー学習スペースの提供・教員の個別指導・模試受験等を実施している。法人施設でアルバイトをしている既卒生の場合は、施設職員と学科教員との情報共有による学習支援も実施している。これらの内容はオープンキャンパスでの学科紹介時に説明している。

【言語聴覚学科】

本学科では、社会人経験者を含む多様な背景を持つ学生を受け入れておりますが、近年はグループワークや実習指導の場面において、主体性や協働性、調整力に課題を抱える学生も見受けられることから、専門職として必要な知識・技術の修得に加え、対人関係能力の育成（講義や日々の面談にて）にも取り組んでいます。しかしながら、養成課程における教育期間には限りがあるため、学生が本来有している主体性や協働性を伸ばしながら、専門職として求められる資質の形成を支援することを重視しています。

合理的配慮については、個々の学生の状況に応じた支援を実施する一方で、卒業後の社会生活や就労を見据え、学生本人との継続的な対話を通じて、自ら課題に対応するためのセルフマネジメント能力の育成にも努めています。そのため、学校が一方的に支援を提供するのではなく、学生本人と支援内容や役割分担について相互理解を図りながら、適切な支援体制の構築を行っています。

国家試験不合格者に対しては、現役学生への教育を優先しつつも、本人の希望に応じて卒業後も面談（月1回）や個別学習指導（月2回：遠隔利用）を継続して実施するなど、資格取得に向けた支援体制を整えています。

【介護福祉学科】

本学科では、学生が主体的に考え行動できる介護福祉士の育成を目指し、アクティブラーニングを積極的に取り入れています。グループワークでは、司会・書記・発表者などの役割が特定の学生に偏らないよう教員が意図的に役割を指定し、全ての学生が発言や調整、発表を経験できるよう工夫しています。

また、多職種連携やチームケアを意識した授業を実施し、自らの専門性を理解するとともに、他職種と協働しながら主体的に行動できる力の育成に努めています。今後も知識・技術の習得だけでなく、現場で求められるリーダーシップや調整力を発揮できる人材の育成に取り組んでまいります。

【岩戸】

近年、学生一人ひとりの背景や特性が多様化する中で、専門職として主体的に考え行動し、多職種と協働できる人材の育成が重要な課題であると認識しております。また、個別性に応じた支援の重要性が高まる一方で、過度な配慮が学生の主体性や成長機会を損なう可能性についても課題として捉えております。

本学院では、講義中心の学習だけでなく、グループワークや症例検討、発表等のアクティブラーニングを積極的に導入し、自ら考え発信する機会の充実を図っております。また、定期的な面談や学習支援を通じて、学生が自ら課題を解決する力を身につけられるよう支援しております。さらに、臨床実習や特別講話等を通じて、セラピストとしてどのような役割を果たしたいのか、どのような専門職を目指すのかを考える機会を設けております。

今後も国家資格取得のみを目標とするのではなく、臨床現場において主体性や協調性、調整力を発揮できる人材の育成に努めるとともに、学生の成長を促進する適切な支援の在り方について継続的に検討してまいります。

また、国家試験不合格者に対しては、卒業後も面談を実施し、進路や学習継続の意思確認を行ったうえで個別支援を実施しております。具体的には、教員による個別指導、教室開放による学習環境の提供、模擬試験や過去問題を活用した学習支援等を行っております。

これらの支援体制については、オープンキャンパスや学校説明会、個別相談等の機会を通じて入学希望者にも説明し、本学院の教育方針や卒業後支援について理解いただけるよう努めております。

(1) 個別スペースの確保について(林学院長)【別紙】

(2) その他

1) アンケート調査結果の報告；理学療法学科学生の学習状況と臨床への意欲に関するアンケート、ならびに法人理学療法士における臨床推論および今後について(岩戸副学院長)【別紙】

3. その他

次回、令和9年3月予定。